

Fukushima 50

観賞日 2023年9月11日 上映時間 122分

【概要】

制作 2020年
監督 若松節朗
原作 門田隆将『死の淵を見た男 吉田昌郎と
脚本 前川洋一 福島第一原発』
音楽 岩代太郎
撮影 江原祥二
出演 佐藤浩市（伊崎利夫）、渡辺謙（吉田昌郎）、吉岡秀隆（前田拓実）
緒形直人（野尻庄一）、火野正平（大森久夫）、平田満（平山茂）
安田成美（浅田真理）、佐野史郎（総理大臣）、篠井英介（小野寺秀樹）



【あらすじ】

2011年3月11日午後2時46分。マグニチュード9.0の大地震が東北地方の太平洋岸を襲う。東京電力福島第一原子力発電所は予想をはるかに超える津波に巻き込まれ危機的状況に見舞われる。電源を失い原子炉内で燃料が溶け出すいわゆるメルトダウンの発生が必至となる。これを回避するため所長の吉田昌郎は当直長の伊崎利夫にベント（格納器内の爆発を防止するため圧力を下げ、放射能を周囲に発散させる手段）を指示する。

現地最高責任者の吉田所長、吉田の指示のもと最前線で危険な作業を遂行する伊崎と部下たち、低迷する内閣支持率のアップを狙う総理周辺、政治と現場のはざままで右往左往する東電本社首脳。

世界最悪の原発事故といわれた福島原発事故をモチーフに、現場で必死に奮闘する人々を描く問題作。各種映画賞を受賞した大作。

【解説】

■ポイント

●Fukushima50

被災した原子力発電所内で危険な作業に従事した50名の作業員

●東日本大震災

2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震（マグニチュード9.0、震度7）による災害と福島第一原子力発電所事故による災害。東日本、特に東北三県（岩手県、宮城県、福島県）を中心に2万人に近い死者、行方不明者をだした。マグニチュード9.0は日本の地震観測史上最大、世界でも1900年以降4番目の規模であるが、地震による被害よりも、津波による被害、原発事故による長期、広域にわたる被害が問題になった。

●受賞（2021年第44回日本アカデミー賞）

12部門にノミネートされ下記6部門で受賞

監督賞、助演男優賞：渡辺謙、撮影賞、照明賞、美術賞、録音賞

■見どころ

●現場の最前線で体を張って奮戦する伊崎部隊と弾の飛んでこない所で指示を出す官邸、東電本社

●いざというときに役に立つ人、頼りにならない人